

台風6号が去ったあと、アブラゼミやヒグラシが鳴き始め、いよいよ夏本番です。存分に東白川村の夏を満喫したいと思っています。

日照不足や梅雨寒の影響で、米やトマトなどの農作物への影響を心配していますが、基幹作物の白川茶も遅霜や低温の影響であまり良い作況ではありませんでした。荒茶の生産量は年々減少している状況ですが、これに輪をかけたように数量で前年度対比70%台という結果になりました。白川茶全体の数量が減少したため単価は昨年より上がったものの、工場の稼働率が下がり、結果として今年も赤字経営になるという報告を受けています。この数年来続いている悪天候、数量の減少、低価格など何ひとつ明るい材料の無い白川茶の現状があります。

こうした状況を何とか打破したいと、ここ数年茶業改革に取り組んできております。美しい村東白川の景観を構成している茶畑を維持し、そこから生産される白川茶のブランド力を高め、茶農家、茶生産組合、茶商の皆さんが事業を継続できるようにするためには何をなすべきか、茶業関係者に経済や流通の専門家を加えて審議会をつくり議論を重ねていただいています。10月には結論を出して、来年度以降の生産から流通までの新しい仕組みを決めて、行政として再投資を行なう覚悟でいます。

立村130周年関連の事業について、新しいニュースをお知らせします。関連協賛行事の最初は、9月15日開催の第43回郷土歌舞伎公演で幕を開けます。大規模改修工事の完成と立村130周年記念とし、『令月妖術和巖島(れいげつようじゅつわいつくしま)』という演目を上演することになり、ななな…なーんと(歌舞伎調で)私も大日丸という妖術使いの役で出演することになってしまいました。最初は口上を読むだけと高を括っていましたが、見得や六方、長台詞もあり、今、一生懸命練習に励んでいます。次に、9月23日には本村出身の石原修二さんのふるさとコンサートが、同級生の皆さんを中心にした実行委員会の主催で開催されます。

夏から秋への季節の移ろいを楽しみながら、事故や災害の無い令和最初の夏であるよう祈っております。

令和元年8月

東白川村長 今井俊郎